中央大学学員会 49年白門会会報

第12号

発行日　平成18年6月8日
発行人　山　﨑　厚　太
発行所　中央大学学員会49年白門会
印刷所　(有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5　中央大学駿河台記念館学員会事務局　TEL. 03-3219-6175

49年白門会のホームページ⬇

http://www.gakuinkai.com/hakumon49/

（題字・葛西　聖司）

愛妻家のすすめ

49年白門会副幹事長　荒木康裕

そろそろ定年退職のゴールもちらついてきて、退職後をどうするかプランを立て始めた人も多いのではないでしょうか。リタイアしたらゴルフ三昧、それに旅行に49会？　などと思い描いておられるかもしれませんね。もっともゴルフするには年金が心配、旅行するには健康が心配、49会にのめり込むには…何の心配もありませんが、毎日用事があるほど大組織でもなし、といったところでしょうか。

ところで、お金や健康の心配もありでしょうが、その前にお宅は奥さんとの仲はうまくいっていますか。近頃は定年退職を楽しみにしているのは我々ではなく、退職金をもらって離婚することをワクワクして待っている奥様方だということも言われておりますぞ。

ローマは一日にしてならず。夫婦の仲も一日にしてならず。幾星霜共白髪まで、などと思っていたのが、晴天の霹靂とやらで、子どもは独立して寄りつかず、奥さんにも三行半を突き付けられては、「いったい俺の人生は何だったんだ」などと、頭をかきむしったところで後の祭り。

一人酒場で飲む酒は、歌の文句のようにカッコ良くないこと請け合い。

小生など定年後嫁さんに去られては、まず調味料のありかがわからない。…そんなことでは済まないぞ…、との諸先輩の声が心に響いてまいります。「濡れ落ち葉宣言」（関白宣言ではありませんぞ）している身としては、ここは一つベターハーフ何ぞではなく、それこそベストハーフのつもりで、日々コミュニケーションをとっております。

悟りを開く心境になる

疲れて帰っても、まず疲れた顔を見せたりはしない。夕食の最中、嫁さんのお話（ご近所の話から飼い犬の一日の報告、子どもの動静、などなど）を新聞読みながら上の空で聞く、などといったことは間違ってもやらない。たまの日曜日に二人でどこか行こうかと誘った時に、「友達との会があるからまたね」などとすげなく言われても、笑顔で「じゃあ、また今度行こうね」などと言って、気持ち良く送り出して、「夕食は適当に済ませるから、楽しんでおいで」と笑顔で言う。この位のことを耐え忍んでやっているのではなく、自然にできるようにならないといけない、と自らに言い聞かせております。

男は、長年連れ添えば言わなくてもわかってくれる、とつい思いがちではあるが、女性は感受性の強い生き物。言ってくれなきゃわからない、というのも至極ごもっとも。日々「愛しています」とは言わずとも、何も言わずにお茶が出てきた時には、ありがとう、の一言と、おいしいよ、の二言が妻に対する礼儀というもんです。

何も難しいことなんぞありません。相手に対する思いやり。相手の身になって考える。どこかのマナー講座で聞いたことがあるような気がしないでもないが、これで嫁さんが優しくなれば、願ったり叶ったり。

どこかの知事さんは、家内が趣味とのたもうた由。趣味にできるほどの嫁さんならずとも、ゆっくりと人生を共に過ごせる相手は人生のかけがえのない宝物。

チルチル・ミチルではないけれど、青い鳥はお宅にいるのではないですか。素敵な青い鳥と素敵な人生を送りたいものですね。

CONTENTS

1ページ
★愛妻家のすすめ　荒木　康裕

2ページ
★友へのメッセージ　吉江　信博
★役員立候補者募集
★総会のお知らせ

3ページ
★上野散策レポート　山﨑　厚太
★楽苦我喜（らくがき）　松平　守

4ページ
★新年会レポート
★会費納入のお願い
★原稿募集
★編集後記

友へのメッセージ

チャレンジに定年はない!!

吉江　信博（商）

都会の喧騒を離れ裏磐梯桧原湖畔のリゾートホテルへ来て約2年になります。澄んだ空気、森林浴、日々野鳥の囀りを聞いての目覚め、目の前には裏磐梯の荒々しい山が迫り、まさに別天地です。東京は桜が散り始めたという4月初め、裏磐梯にはまだ雪は残り、湖面は氷結し、路面も凍結して、まだまだ冬の装いです。

半径15キロ圏内にコンビニが2軒のみ。大半の食品や生活物資は15キロ離れた猪苗代か、30キロ離れた会津若松や喜多方まで行く必要があります。環境は素晴らしいのですが、長く暮らすところではないというのが実感です。だからこそ、自然の残るリゾート、命の洗濯ができるリゾートだと思います。私は今こんな環境下に居ります。

先日「世界一受けたい授業」で東京大学大学院助教授・久恒辰博先生が、脳細胞は50歳代でも作ることができるという講義をしていました。脳中央部の海馬に刺激を与え鍛えることで、脳は活性化し老いを防止できるそうです。さらに海馬に刺激を与えるには

＊何かに没頭すること（モヤモヤするくらい集中して何かをすること）
＊好奇心旺盛で、常に新しい物にチャレンジすること
＊気になる異性と接触すること（恋をすること）
＊プチダイエット（適度の運動とダイエット。良くないのはストレス）

が有効とのことです。

そういえば女優の森光子さんは全項目当てはまりそうですね。86歳には到底思えませんし、見えません。芝居に集中し、且つ新しい舞台にもチャレンジ、若手俳優に恋をし、毎日ダイエットや適度な運動をしています。昨年までは舞台で「でんぐり返し」もやっていました。

銀行員時代のお客様に「40歳代までは鼻たれ小僧、50・60歳代で青二才から青年へ、70・80歳代でやっと一人前」と言われたことがあります。当時お客様は86歳で、毎週社交ダンスをしては若い女性に恋をしていました。大会にも出場し常に上位に入り、その軽やかなステップはとてもお年には見えませんでした。今になって思えば、まさに常に海馬に刺激を与え続けていた証拠だと思います。

脳を鍛えて若さを!!

私達は全員50歳代半ばを迎えています。気持ちは30歳代という人も多いでしょう。一方でお孫さんもでき、お爺さんと呼ばれている人もいると思います。仕事の第一線から外れようとしている人もいるでしょう。でも、自分の人生「遺り残しは無いですか、人生は一度ですよ」と問いかけられた時、何と答えますか。もう一度頑張ってみませんか。

私自身大学から銀行入行、結婚、銀行関連会社での第二の職場、ここまでは流れに任せ、主体性は余りありませんでした。今自ら新たな世界に飛び込んで本当の第二の人生を歩み出したところです。

人生は長いです。たまには流れに逆らうことも良いのではないかと思います。脳を鍛え、新たな何かにトライ・チャレンジする、脳に栄養のある食生活に心掛ける、体も心も豊かで健康になっていくでしょう。

もう一度人生にチャレンジしてみませんか。きっと素晴らしい人生が待ち受けていることと思います。

2006年度総会のお知らせ

「49年白門会」の2006年度の総会が開かれます。

総会では、同期で作新学院大学教授の日高定昭さんの講演があります。経営学について興味深いお話が聞かれますので期待してください。

総会終了後、懇親会もあります。会員の皆様のご出席をお待ちしております。

日　時・平成18年7月8日（土）
午後3時（2時半より受け付け）
場　所・中央大学理工学部校舎
（東京都文京区春日1－13－27）
懇親会・午後4時～6時。同校舎
会費は5千円です。

「49年白門会」役員立候補者募集

2006年度の総会は役員の改選期です。役員（会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計監事）に立候補しようとする人は、6月24日（土）までに、書面で左記の選挙管理委員長までに申し出てください。

宛先・東京都千代田区神田駿河台3－11－5　中央大学駿河台記念館学員会事務局内「49年白門会」宮川保

山﨑司平法律事務所
第二東京弁護士会所属
日本弁護士国民年金基金常務理事
中大法学部非常勤講師

辯護士　山　﨑　司　平
東京都中央区銀座3丁目10番9号　共同ビル6階
電話　03－3546－0281　FAX　03－3546－0280

主要取扱申請書類等
◇建設業・工事入札・産廃業・宅建業
◇風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
◇外国人在留手続・帰化・国際結婚
◇遺言書作成・遺産分割協議書作成
法律相談　申請書類作成　提出手続代行
行政書士 増田勝美 電話 03-3491-9880

東京国立博物館から アメ横散策

山﨑厚太（経済）

1年ぶりの散策です。4月22日の土曜日、当日は天候にも恵まれ、しかも上野ということで、大変な人出でした。「最澄と天台の国宝」が開かれている東京国立博物館に入る前は余り混んでいないようでしたが、中は見学者で身動きが取れないほどでした。見学者の多くは、我々より少し上の年代が大半で、若い人はいかにも文学部史学科の学生という感じでした。多くの仏像彫刻、絵画、巻物の書がありましたが、あの当時でこれだけの文化があるということは、天台宗が世の中に与えた影響がいかに強いものだったかと思いました。

1時間ちょっとの見学の後、アメ横に向かいました。途中には西洋美術館や西郷さんの銅像がありましたが、上野というのは意外に広いものです。アメ横というのは値段があってないようなところです。4700円のマグロが1000円とか、我々もチョコレート類を袋一杯1000円で買いました。店員が無造作に袋が一杯になるまでチョコレートを詰めるのです。

3時すぎにアメ横の見学を終わり、さて懇親会には少し早いかと思っていたところ、懇親会より参加する日高さんが、今上野に居るとの電話。これ幸いとアメ横の入口で待ち合わせをしたところ、なかなか現れない。電話で確認すると入口にいるとの返事。周りの風景を確認すると、確かに待ち合わせの場所にいる様子。何気なく後ろを振り返ると2メートルくらい離れたところで、向こうを向いて話していた日高さんを発見。お互い、反対を向いて話していたようだ。

懇親会の場所は上野駅前の「聚楽」学生時代にお茶の水界隈でコンパをやった飲み屋の雰囲気。満員だったが料理は早かった。途中で北陸出張から戻った木村さんが合流、大いに盛り上がりました。

本日は、新潟より松平さんがわざわざ新幹線で参加、石川さんが博物館の割引券をゲットしてきてくれるなど、散策が大いに盛り上がりました。紅一点の井さん、お陰様で会が和やかでした。

楽苦我喜（らくがき）

松平　守（経済）

6年間の単身赴任生活に終止符を打ち、自宅通勤を始めて1か月が過ぎた。新緑が眩しい季節になった。残雪の山々を遠くに眺め、ローカル線に揺られながら約1時間の旅である。

新潟県中越地震から1年半が過ぎようとしている。車窓から見る風景には、その爪痕が生々しく残っている。一瞬にして親子3人を飲み込んだ崩落現場を通る度に、胸が痛む思いである。大自然の脅威をまざまざと見せつけられた思いがする。

昔から「地震、雷、火事、親父」と、怖いものの筆頭にあげられているのが地震である。地震大国日本、過去に幾度となく大地震を経験している。今回の地震の恐怖の中で、記憶に蘇るのが中学校1年生の時に経験した新潟地震（昭和39年）である。この年は、東京オリンピックの年であり、また新潟国体の年でもある。それはちょうど午後の授業が始まる直前であった。慌ててグランドに飛び出たら、そこには地割れができ、水路の水が激しく波打っていた。恐怖心で足が竦んだことを覚えている。

関東大震災から既に80年以上が過ぎ、いつまた首都圏を襲う大地震が来てもおかしくないと言われている。現代科学の粋を集めても、未だ予知できないのが地震である。それは突然やってくる。今回の新潟県中越地震でその恐怖をまざまざと見せつけられた思いがする。

思い起こせば、昨年の「49年目問会」の総会の日の地震にも驚いた。東京で震度5弱を記録、交通機関がマヒし、駅には人が溢れた。

「天災は忘れた頃にやってくる」。この言葉を肝に銘じ、経験に学び、常日頃から備えを怠らないようにしたい。

電気設備・設計施工　FUNAMI
栃木県庁　宇都宮市役所指定　関東一円
株式会社 船見組
代表取締役社長　船見 二三男
〒320-0014
栃木県宇都宮市大曽5丁目3番6号
TEL 028-622-0321（代）
FAX 028-624-4499

第17回中央大学ホームカミングデー

開催日　平成18年10月22日（日）
午前9時45分（開場）～午後4時
会　場　中央大学　多摩キャンパス

開会式は10時15分からです。演奏会、応援部演技トークショウ、模擬店、施設見学会、茶席、寄席、福引抽選会等、盛りだくさんの企画があります。秋の一日を是非お楽しみください。

元気な顔が集まった

新年会

2006年1月28日(土)

1週間前に降った雪が、連日の寒さのため、日陰の路地に凍ったまま残っている銀座7丁目。1月最終土曜日が定例となった新年会が、午後3時から開かれた。例年「三味高松本店」が会場だったが、店の都合で急遽「銀座7丁目店」に変更。1週間前にはメールと手紙で参加者に連絡したが少々不安。でも、定刻には参加の31名が集合し杞憂に終わった。

山﨑会長の挨拶と乾杯に続き歓談となった。椅子とテーブルが用意されていたので、4、5人ずつが輪になって話が弾んだ。定年、年金、病気、子供の進路など、そういう年代になったことを改めて意識せざるを得ない話題ばっかりになってしまった。

この会には、大阪から村田さん、名古屋から加納さんが遠路はるばる駆け付けてくれた。また、法学部の山根信正さんが新入会員として参加された。ジワジワと会員が増えていくのが実感される。定年を迎える年になったら、ドッと増える予感もしてきた。山﨑会長も挨拶で、役員を今年で6年やっているので、そろそろ違う人がやってほしいと言っていたが、今年は役員の改選期ですので、是非力になってほしいものです。

恒例の福引きがあり、タオル、饅頭などの中大グッズが全員にプレゼントされた。また、小澤さんの好意で「山種美術館」のカレンダーが全員に配られた。

山﨑司平副会長の中締めの挨拶の後、恒例の校歌、応援歌の斉唱になった。歌詞カードが例年と違い拡大コピーになっており、老眼鏡の世話になっている殆どの人から好評（?）だった。応援歌が終わると同時に、これまた恒例の小澤さんが力強くエールを交換した。体に心地好く、よし、頑張ろう！ という気になった。

記念写真を撮り、5時半頃会場を出ると、外は既に暗くなっている。16名が近くの「ライオン」に行き二次会が始まった。二次会から益田さんが加わり、至福の夜は過ぎていった。

（広報部）

平成18年度の会費納入のお願い

「49年白門会」は7月で6周年です。この会は皆様の会費によって運営されております。

7月の総会時に平成18年度の会費3千円を徴収させていただきます。出席されなかった方は、郵便振替か銀行振込みでの納入をお願い致します。これからの活発な会の運営のためにも、皆様のご協力をお願い致します。

（会計部）

編集後記

誰か…書いて下さい

この会報は年2回発行、会員の皆さんから寄せられる原稿をまとめることで完成する。

毎年6月発行の会報には、次号の「会員からのエッセー」のテーマと原稿の募集が掲載されている。しかし、自主的に投稿してくれる方は今のところいない。

編集会議での悩みは原稿が集まりにくいというもの。書くことが苦手な人は当然だろうが、得意な人も「自分だけが何回も書いてはどうか」という遠慮があるのか、原稿が思うように集まらない。

順番に書いてもらうとかアイデアはいくつかある。でも、義務化することに抵抗を感じる人もいるだろう。ということは、当面は書くことが嫌いでない人にお願いするしかない。同じ人が度々登場することになるかも知れないが、そこはご容赦頂くとして…。

さて、次回のテーマは「心に残った○○」。○○は何でも良い。食事でも、本でも、どこかの場所でも或いは言葉でも良い。書きやすいテーマだと思いますのでとにかく書いてみませんか。このコラムを読んだ皆さんからの原稿が山積することを公報部一同で祈っています。（原　伸止）

会費の納入についてのお願い

中央大学49年白門会会計担当

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替（手数料は不要です）

振替口座番号「00180-3-196081」

口座名称　「49年白門会」

②銀行振込（振込手数料が必要です）

銀行名　**三菱東京UFJ銀行日野市役所支店　普通預金「0569115」**

口座名　**49年白門会　代表　山﨑厚太**

49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会会長　山　﨑　厚　太

電話　03-3968-8417　FAX 03-5970-2768

※メールアドレスの登録・変更は hakumon@gray.plala.or.jp　にご連絡ください。

原稿募集

次号掲載の『会員からのエッセー』では「今までで『心に残った○○○○』」というテーマで皆様からの原稿を募集します。

○○○○の所は、プレゼント、旅、映画、音楽、恋、食べ物、動物、人物などなんでも結構です。心に残った思い出の数々を紹介してください。

400字前後でお書きになって、事務局までにお送りください。締切りは10月末です。

広報部から直接、手紙やメールで依頼することもありますので、ご協力お願い致します。